

大震災・原発事故の中で「新たな差別・排除」が生まれている！

前号に続いて、大震災・原発事故に関わって述べてみたいと思います。東京電力福島第1原発事故によって、放射能による「被害」が大変深刻な状況になっています。事故から7ヶ月が過ぎた今日もなお、「検査の結果、何の問題もない」といったことが明らかになっているにも関わらず、様々な分野で「風評被害」が拡大し、収まる様子がありません。「原発事故による放射能によって、復興どころか復旧のスタートラインにすら立てない」という福島県内のある首長さんの言葉が、その深刻さを示していると言えます。

さらに、「風評被害」にとどまらず、それが放射能被害を受けた人たち、とりわけ福島県の人たちに対しても向けられ、マスコミ等で報道されているように、まさに「フクシマ差別」とも言えような「新たな差別・排除」が生起しています。転校先で「放射能がうつる」といじめられる子、「福島ナンバーの車お断り」の看板を出したガソリンスタンド等々、枚挙にいとまがないほど広がりを見せています。

私たちは「同じ過ち」を繰り返してはいないか？！

こうした背景には放射能に対する恐怖があります。広島・長崎の原爆投下、そしてチェルノブイリ原発事故などによって、私たちは「核や放射能の恐ろしさ」を嫌というほど知らされてきました。ところが、一方で「どの程度までなら大丈夫なのか」といった、基本的なことについて、私たち自身が正しい知識を十分には持っていませんし（そういった教育もされてきていません）、これに「政府や東電が正しい情報を迅速に出していない」という不信感・不安感が加わって、「見えない放射能」に対する恐怖をより強め、「福島県民」への差別・排除へとつながっていると言えます。

しかし、私たちはこれまでの歴史と経験を振り返って見る必要があります。かつて「癪（らい）」（*現在はハンセン病）予防法」（1907（明治40）年制定、1996（平成8）年廃止）によって患者を強制隔離し、断種や堕胎

を行う等「国家による犯罪・人権侵害」と言われる過ちを犯してきましたし、国民も地域を挙げて患者を捜し出し、「療養所」に送り込むといった「無癪県運動」に協力していった事実があります。

また、エイズ（HIV）やO-157、新型インフルエンザ等が社会的問題になった時も、「怖い。病気がうつる」と言って、その人たちを差別・排除するといった問題が生起してきたことを忘れてはならないと思います。今回の問題も「その根っこ」は同じではないかと思います。

「自らの命を守る」ことと「差別・排除する」ことは別の問題！！

もちろん、放射能という「命」に関わる問題（しかも将来の子どもたちにも！）ですから、「最大限の安全・安心」を確保しなければなりませんし、「自分の命は自分で守る」ことは言うまでもありません。しかし、今回の事故の第一義的な責任は、政府や東電にあります。福島県の人たちはその「被害者」であって何の責任もありませんし、ましてや差別されたり、排除される理由は全くないということをはっきりとすべきだと思います。その上で、私たちが「しっかりと学んでいく」ことも含めて、その対策・対応を国や県をあげてどうしていくのかが必要なことであって、「とりあえず、怖いから、不安だから福島の人たちは避けよう」というのは全く別の問題であり、理不尽な差別・人権侵害の何ものでもないと言えると思います。

私たちはこうしたことを「世に問う」ために、福島県南相馬市長をはじめ、関係者の参加を得て「福島差別を考えるシンポジウム」を開催し、皆さんとともに考えていきたいと思っています。

「福島差別を考えるシンポジウム」

日時：2011年12月11日（日）13:00～16:00

会場：難波別院（南御堂）同朋会館講堂

〈シンポジスト〉

桜井勝延さん（福島県南相馬市長）

飯田清和さん（広島被爆体験語り部）

村田三郎さん（阪南中央病院副院長）

〈コーディネーター〉

奥田均さん（近畿大学人権問題研究所教授）

参加費無料！

目次

1面 主張

2面 事業紹介

人権総合相談員養成講座/
自殺防止サポーター養成講座/
自殺防止のための地域
相談会/相談の窓

3面 事業報告

コミュニティづくり協働
事業/よりそいネットお
おさか定例会/R A A P
養成講座3期

4面 お知らせ

賛助会員募集・寄付のお
願い